

まちのスケッチブック

夢をかたちに…あたらしいまちづくり

VOL.26

合併協議会を
振り返る

ちよまつ ひろやす
泉佐野市議会議員 **千代松 大耕** (30歳)

去る8月22日(日)に泉南市・阪南市・田尻町・岬町で泉佐野市を含む3市2町の合併に対する是非を問う住民投票が行われました。結果はすでにみなさまもご存知のとおり、泉南市・阪南市・田尻町で「合併に反対」が多数を占め(表1)、この2市1町が9月1日(水)に開催されました第13回泉州南合併協議会におきまして合併協議会からの離脱を表明しました。このことにより、泉州南合併協議会は解散となり、この3市2町の合併は白紙撤回となりました。この結果に対して、泉州南合併協議会に委員として出しており、市町村合併を推進してきまして私としては、非常に残念に感じておりますし、合併推進で理解を示していただきました多くの泉佐野市民の方々に本当に申し訳なく思っております。

合併の是非



(表1) 住民投票結果

| | 泉南市 | 阪南市 | 田尻町 | 岬町 |
|--------|---------|---------|--------|---------|
| 当日有権者数 | 51,863人 | 48,353人 | 5,921人 | 16,401人 |
| 投票者数 | 19,164人 | 18,406人 | 4,055人 | 7,181人 |
| 投票率 | 36.95% | 38.07% | 68.49% | 43.78% |
| 賛成 | 4,579票 | 4,056票 | 444票 | 4,042票 |
| 反対 | 14,218票 | 14,088票 | 3,583票 | 3,019票 |
| 無効 | 363票 | 262票 | 28票 | 120票 |
| 持ち帰り | 4票 | 0票 | 0票 | 0票 |
| 合計 | 19,164票 | 18,406票 | 4,055票 | 7,181票 |

* 合併協議を反省 *

今回の合併協議の反省点としては、最終的に焦点がそれぞれの団体の財政難克服といった点になってしまったことにあると考えます。そして合併によってこの地域をどういったかたちに導いていくか、これからのまちづくりをどのように進めていくかといった点を具体的に描けなかつたことにも原因があると考えます。関空税収の一元化がもたらすメリットとまちづくりや、合併特例債の活用を具体化するなど

の点が足り

** 結果を振り返る **

「住民投票は合併に対して反対の人は投票所まで足を運ぶが、潜在的に合併に賛成と考えている人やどちらでもいいと考えている人は投票所までなかなか足を運んでくれない」といったことが、住民投票を実施したことがある自治体の関係者からよく聞いていました。そして今回のケースについても潜在的に賛成と考えている人を投票所まで足を運ばずものや、また合併に対してどちらでもいいと考えている人を賛成に向かせる魅力的なものが打ち出せなかつた合併協議であったと今となっては反省しております。また多くの項目で住民の受益者負担が上がってしまう田尻町では厳しい結果が出てしまうだろうと多くの人が予想しました。法定の合併協議会はその自治体でも離脱してしまうと枠組みを変えて再スタートしなければなりません。「どうせ、田尻は無理やる。(合併に反対の結果が出るという意味)」と考えて、田尻町以外の自治体で賛成の人でも投票所に足を運ばなかつた人がいたと後から聞きました。こういったことも田尻町以外で賛成票が伸びなかつた原因だとも考えられます。この合併協議は泉州南合併協議会が結成された当初か

ていなかつたようにも考えます。それぞれの団体が今の苦しい財政事情を合併によって克服していくといった議論に住民説明会のときも多くの時間が注がれてしまい、住民投票に対して悪い影響を及ぼしたと思います。財政難の克服を前面に出してしまふ合併は、合併協議で陥ってしまつては一番いけないことです。堺市・高石市の合併の住民投票もそうでした。「財政難がどういかなる」というのは合併の一つのメリットであつて最終的な目的ではないのです。そしてそれが他市町の住民には、「泉佐野市の借金を背負う合併」と間違つた伝わり方もしてしまいました。

千代松大耕プロフィール

1973.10.3 泉佐野市松原生まれ
 1986.3 泉佐野市立第一小学校卒業
 1989.3 泉佐野市立佐野中学校卒業
 1992.3 同志社香里高等学校卒業
 1996.3 同志社大学経済学部卒業
 1998.7 Lincoln University MBA 取得
 2003.3 大阪府立大学大学院修了
 2004 和歌山大学大学院在学中
 1999.4 株式会社 堀場製作所 入社
 2000.2 泉佐野市議会議員初当選
 2002.5 泉佐野市議会議員2期目当選
 2004.5 第61代泉佐野市議会副議長就任

〔現在〕

- (社) 泉佐野青年会議所理事
- (NPO 法人) 大阪夢づくり協議会理事
- 泉佐野市バレーボール連盟会長
- 同大アメフト部 OB 会常任理事
- 自由民主党泉佐野支部政務調査会長

ら、「住民投票」に左右され続けたものでありま
 した。阪南市・田尻町・岬町は「最終的には住
 民投票を実施して是非を問う」と表明して合併
 協議会に参加してきました。「一般的に法定の合併
 協議会を発足させる」ということは、ある一定の合
 併のコンセンサスを得てからのものであるにも
 関わらず、そういった態度で参加してきたこれら
 の自治体によって合併協議は常に「住民投票」
 を意識した上で進められたのであります。合併
 協議には普通2年くらいかかると言われており
 ますが、この泉州南合併協議会には合併の議決を
 予定していた平成17年の2月まで約1年3ヶ月
 あまりの時間しかありませんでした。その上「住
 民投票」の実施時期は、当初参議院選挙と同日
 の7月1日に行うと噂されておりましたので、
 それまでに住民に対して今回の合併に関する詳
 しい資料を作らなければならぬという焦りも
 付きまといました。そういったことが多くの方
 々に賛同を得られるような具体的かつ魅力的な
 合併像を作り出せなかった遠因であるとも考え

られます。

* なぜ住民投票? *

「泉佐野市だけなぜ住民投票をしないのか？」
 と泉佐野の市民さんから数件問い合わせがあり
 ました。逆になぜ泉佐野市以外の2市2町の自
 治体が住民投票をしたのかと言うと、首長は合
 併を推進するが議会が理解を示さない自治体、
 議会はある程度合併には理解しているが首長が
 消極的な自治体、首長も議会も消極的な自治体が
 最終的な判断を「住民投票」に委ねることによっ
 てそれぞれの責任を軽減したいがために「住民投
 票」を実施したのです。泉佐野市においては市長
 が責任を持って合併を推進し、議会もそれに対し
 て十分な理解を示していました。だから「住民
 投票」は実施しなかったのです。それでも「住民
 の声を聞くべきだ。」と住民投票の実施をのぞま
 れる方はいました。しかし「住民投票」を実施す
 れば、合併に反対するグループが合併協議の各論
 だけを捉えてマイナスキャンペーンを行い(受益
 者負担の増加する項目に焦点をあ
 わせて取り上げるなど)、そのこと
 によって多くの住民さんは惑わさ
 れてしまいます。今回の2市2町
 の「住民投票」のときも、反対派の
 グループが行ったマイナスキャン
 ペーンはそうでした。このことも
 実施しなかった理由であります。

泉佐野はどんななの?

住民投票の結果が出てからよく
 市民さんから「千代松君、泉佐野は
 合併があかんようになったけど、こ
 れから大丈夫か?」と言われます。
 私はそのとき必ず「泉佐野市は大



丈夫で
 す。」と言
 い切りま
 す。私とし
 ましては今
 回の合併に対して泉佐野市の財政難を克服する
 ために推進したのではなく、これからのまちづ
 くりを考えたときに、関西国際空港とりんくう
 タウンが一つの自治体になることによって、そ
 れらを中心としたまちづくりがより一層進み、こ
 の地域にとって大きなメリットをもたらすと考
 えたのが一番でした。泉佐野市は単独でやってい
 くときの再建計画をこの春に打ち出しました。
 厳しい計画で市民の方々にも大きな痛みを伴っ
 ていたただかなければならないものです。しかし
 平成18年度までの期間でこの計画が全うされれ
 ば、泉佐野市は必ず立ち直り、近隣自治体の中
 で一番良い自治体になると信じています。また
 それまでの間に、市民の方々に伴っていただく痛
 みを少しでも和らげるために創意工夫していく
 ことが泉佐野市議会議員としての大事な仕事で
 あるとも考えます。国の三位一体改革の動向が
 定かでない中で、地方交付税に大きく依存して
 いる自治体は今後ますます苦しくなっていくと
 予想されます。そういったときには合併の議論
 が再燃するかもしれません。そのときに「あの
 時に泉佐野市と合併しよければよかった。」と今回
 の合併を否定した自治体に言われるような「泉
 佐野市」を創り上げていくと固くみなさまにお
 約束いたします。

連絡先 泉佐野市松原2-5-31
 TEL 58-1708
 FAX 69-0311

ホームページ
 メール
 発行部数累計

<http://www3.ocn.ne.jp/~chiyo51/>
chiyoma51@hotmail.com
 350,000部 2004.9第26号

* 「まちスケ」のバックナンバーが必要な方は連絡ください。